

ただの不思議な 随想



旭川医科大学医師会
旭川医科大学病院

岡嶋 一 樹

移民一世である。移住する前に、人生のかなりの部分を国外で過ごした。移民の国、移民を出した国、に住んだ。移民の国では自身も周りも皆移民、移民を出した国では、自身は異人。同郷の同業者が沖縄に移った。訪ねた際、「異文化の地で、自分は異人と」言っていた。対して、この地は、不連続移入文明とアイヌ文化の地と感ずる。以前住んだ移民の国と似ている。

なぜか、北海道は寒くて広いとのこと説明を頂くことが多い。確かにそうだが、かつて住んだ地と比べると、気候温暖、高人口密度である。

食糧自給率の高い地である。その上、それらは旨い。アスパラガスは道産以外食べないと言う輩が道外にいる。道外でみる「ホッケ」はみずばらしい。農産品、魚介どれも優れている。気候の都合で難しいものはあきらめることとして余りある。なぜか、食品売場に道外産品、時に国外産品を見る。

日出ずる地である。大昔に自己中心的な欧州人が決めた日付変更線との位置関係より全地球的に見ても早く日が出る。惜しむらくは、日本最東端は東京都南鳥島であり通年ではないが、夏の間は日の出は早い。最も早いのは薬取郡薬取村である。なぜか、自己中心の政治屋は無視する。

方向の感覚が、よく分からない土地である。筆頭が、札幌より北にある旭川へ続く鉄道と国道は、なぜ南へ進むのであろうか。歴史的な理由と思われるが、道央のほとんどが、道北の南端より北にあるのも不思議である。

建物が冬仕様である。確かにこの地向けではあるが、厳冬期以外に夏もあることはなぜ忘れられているのだろうか。

いずれにしても、アウトドア派には別天地である。飛行機に乗ってマラソンを走りに来る輩、はるばるフェリーにヨットを積んで来る輩にくらべると恵まれている。自転車の走行距離は格段に増えた。冬の雪遊びは近場でできる。贅沢である。雪の中、網走から斜里へ歩いていたら、狐や丹頂が不思議そうに見ていた。

雪が異次元の軽さである。腰上までの雪をかき分けながら進める。不思議な輩だから警戒せよと、鹿の群に囲まれた。幸い熊にはお目にかからない。なぜか欧米系の人に多く出会う。

日本脳炎の予防注射が最近までされていなかった。仲間のダニ媒介脳炎は当地にいるらしい。イノ

シシは従兄弟分の豚コレラに罹る。

どう見ても不思議の極みは、ここで書き物をしている輩である。亥以外は新春随想とはかけ離れた不思議な話はこれにて終了。次なる不思議は何だろうか。

どさんこ生活



札幌医科大学医師会
札幌医科大学 解剖学第2講座

中野 正 子

新年明けましておめでとうございます。私は2008年に地元の鹿児島大学を卒業し、研修医を経て心身医療に携わっておりましたが、2012年より札幌医科大学の解剖学第2講座に所属しております。元々基礎研究に興味はあったのですが、不思議なご縁で北海道に来させていただきました。

今年でなんと、7回目の冬を迎えます。まさかこんなに長く北海道で暮らすことになるとは、と自分でも驚いています。温暖な地域で過ごしていた私にとっては、「雪虫って何?」「冬靴ってあるの?」「雪の中で傘をささないの?」と、知らないことや分からないことばかりでしたが、最近ではすっかり道産子になってしまいました。

北海道で一番感動したのは、やはり雄大な自然でしょうか。普段は研究室にこもり、マウスの実験などを行っていますが、夏休みを利用して訪れた道東の風景には特に心を動かされました。何億年もかけて形成されたカルデラ湖、カムイが宿っているような山・木々・海・川に触れると、なんて自分はちっぽけな存在なのだろうと思わされます。

真理は自然の中にあり。小さな自分ではありますが、北海道で研究を行っていることには大きな意味があるのではと思っています。地道な研究生活ではありますが、臨床に役立つような成果につながるよう、日々精進してまいりたいと思います。

今年で平成も終わり、新たな時代を迎えます。気持ちも新たに猪突猛進?で仕事を進めつつ、北海道を楽しんでいこうと思っています。今年もどうぞよろしく願いたいします。